



ぶれいん

発行日:平成17年3月28日

発行人:学術図書委員会

発行責任者:大西 英之

編集責任者:吉野 孝広

大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊重した医療を実践する。

神経疾患の専門的・高度医療を実践する。

常に新しい医学の修得に励む。

救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

巻頭言

医療を取り巻く現況より —混合診療を考える—

看護部長 金川 雅子

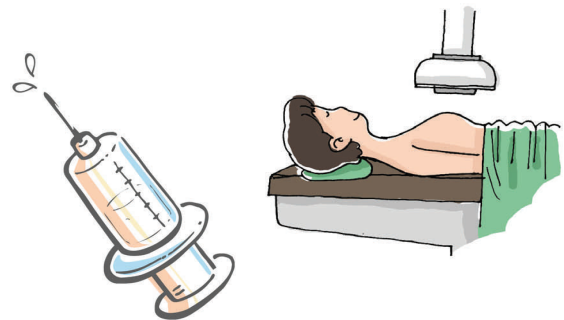
高齢化社会の到来による医療費抑制政策の一環として、一般病床の削減、薬価の切り下げ、診療報酬の見直しなど医療法改定の真只中の平成12年12月に当院はよい医療を提供すべく脳外科の専門病院として開院しました。

年々厳しさを増す医療費抑制政策の中、更にも今、保険診療そのものが見直され、国民皆保険が危機状態になってきております。それは、保険診療部分と自由診療部分の2本立て医療を混合診療として前面解禁への取り組みです。

現在の公的医療保険制度では、全国民が収入や資産の違いに関わらず、一定の質の医療を受けることができるようになっておりますが、反面、未承認薬や保険適応外の治療を受けた場合、保険適応部分も含め、全額自己負担になってしまいます。今回検討されている混合診療は、この未承認

薬使用や保険適応外治療の部分は自己負担とし、保険適応部分においては、保険診療を認めるというものです。しかしこの混合診療が解禁になれば、お金の有無で受けられる医療に格差ができてくること、安全性が確保されていない医療が横行するおそれがあること、保険適応範囲の拡大が鈍る可能性があること、の3点が問題として懸念されます。

李啓充元ハーバード大学教授は混合診療が解禁されれば、弱者の切捨てに繋がると警告されておられます。混合診療になれば、自由診療部分が高額となり、これをカバーする民間保険会社が誕生し、保険会社は利潤確保のために健康人を加入させ、低所得者や病人など弱者は加入できないシステムとなり弱者の切捨てになるということです。





現在混合診療を行っている米国では7人に1人が無保険状態であり、更には、破産原因の第2位が医療負債ということです。また、自由診療部分については、価格設定も自由であり、その上に、十分に安全性の確保ができていない薬品や治療が行われる危険性も懸念されます。

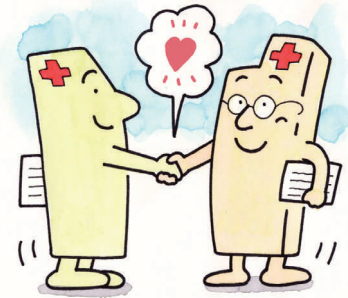
拡大する医療市場にビジネスチャンスを期待する、経済同友会や政府の規制改革民間開放推進会議の全面解禁に対し、医師会等の大規模な反対運動、厚生労働省の慎重な態度により、昨年12月15日、政府は全面解禁を特定の医療に限って例外的に混合診療を認める「特定療養費制度の拡充」で決着する形になりました。この政府の対応を受けて、混合診療での未承認薬使用に関する厚生省労働省の検討会議が発足し、この1月24日の初会合の中でサリドマイドなど三種類の抗がん剤を、臨床試験（治験）として混合診療で使用できる薬として初めて認めました。

（三薬は、多発性骨髄腫治療薬のサリドマイド。悪性胸膜中皮腫治療薬ペメトレクスト。大腸がん治療薬オキサリプラチン）これは欧米ではすでに承認されている薬ですが、日本では「未承認の薬剤ではあるものの安全性を一定程度確保できる治験の枠組みで

使用を認め患者の費用負担を減らすことが狙い」とのことです。

今回の政府の混合診療解禁見直しについては医師会を始めとする多くの反対を受け「特定療養費制度の拡充」という形での決着をみた訳ですが、誰もが等しく医療を受けることができる、世界的にも最も評価を得ている皆保険制度が根底からゆらぎはじめていることを医療に携わる私たちは勿論、国民一人一人が自分の事として、しっかり受け止め、見守って行かなければならない大切な時期に来ているという事がいえます。

脳外科の専門病院として、患者さまお一人お一人を大切に最高の医療を行っていく為にも皆保険制度は守って行かなければならない制度と強く感じる昨今です。



新任のご挨拶

皆さん、はじめまして
—「大西丸」漕ぎ手の一人として—

たおもと かつし
副院長 埜本 勝司



皆さん、はじめまして。平成17年1月から皆さんの仲間に加えていただいた埜本です。日本珍名ランキングでも上位に入っている珍しい名前です。「たおもと」と読みます。私は広島市郊外の田舎町で生まれましたが、大学医学部卒業まで広島で過ごし、最後のインターン生として京都大学付属病院で研修生活を送りま

した。医師国家試験に合格したら京都で脳神経外科を勉強したいという大きな希望を持っての旅たちであったのですが、古い医局体制に反対する青年医師連合の運動で入局が困難となったため、郷里の広島大学に帰って外科学教室に入局しました。紆余曲折がありましたが、2年後幸運なことに大阪の北野病院脳神経外科に医員として採用され、脳外科医としてのスタートを切ることが出来ました。休む暇もないほど忙しい救急病院でしたが、そこで私は松本悟先生と菊池晴彦先生の2人の部長に指導を受けました。このお二人の先生は今日まで脳外科の知識や技術だけでなく脳外科医としての生き方の殆どすべてを教わった恩師です。

その後神戸大学脳外科へ転勤となり、神戸で35年あまりを過ごしてきました。その間幾つかの病院赴任や海外留学を経て、最後は兵庫県立成人病センターの脳外科部

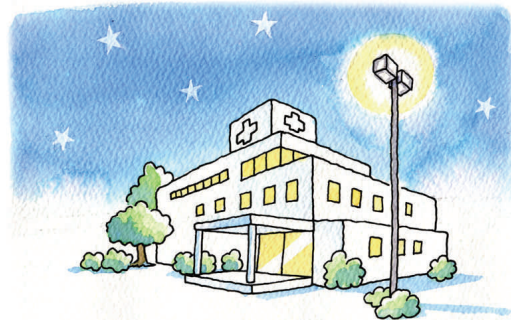


長として17年余り明石市にお世話になりました。成人病センターは癌専門病院ですので、その間救急医療から離れ殆ど脳腫瘍の治療ばかり担当してきましたが、色々な思いがあって脳腫瘍診療しか出来ない専門馬鹿に区切りをつけ、脳外科の（と言うより医療の）原点である救急医療に再び飛び込むことになりました。脳外科医としてはいささか偏った、かなりボンコツの医師でも使ってやろうかという大西院長の温かいご配慮があったからですが、どこまでやれるのか不安を抱いての再出発です。幸い大西院長、西川副院長は、同じ北野病院で修行したいわば同門の先生であり、昔から懇意にさせていただいている尊敬する先生ですので、立派な「大西丸」にあまり緊張もせずに乗船させて頂くことが出来ました。正直なところ想像以上に多忙な毎日で、おまけに知らないことの連続で院内の皆さんには迷惑ばかり掛けておりますが、どうか寛大な心で見守り、ご助言下さい。

大西脳神経外科病院は、単に明石市内の救急病院としての信頼だけでなく、関西屈指のレベルの高い脳外科専門病院として評価を得てお

り、全国的にもその名が知られています。こうした評価も院長以下、職員の皆様全員が心一つにしてより良い医療を目指して頑張ってきたからに他なりません、いくら立派な船でも進むべき方向をしっかりと見据えた船長の舵取りの元で、指揮官と同じ方向を向いて漕ぎ手が心一つにしなければ順調には進んでいきません。

新参者ですが、その漕ぎ手の一人として少しでも役に立てればと願いつつ、役割を果たして行きたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。



どんな部署ですか？ 理学療法室

理学療法士 技師長 吉野 孝広

当院理学療法室は理学療法施設基準Ⅱの認定を受け、理学療法士3名、助手1名の4名で業務を行っています。救急指定病院という特徴から発症直後急性期より治療を開始することが多く、所謂「リハビリ」のイメージとは少し違うのかもしれませんが。

これまで、理学療法は疲労や持久力をあまり考慮せず闇雲に「弱いから強くする」「沢山やれば効果が上がる」などと至極単純なことで行われてきたような気がします。特に脳疾患に関しては、運動による疲労、回復のための睡眠、過度な訓練による痛み、などが無視され「頑張らないと動かなくなる

よ」と脅迫まがいの一言で、努力をさせていたのが現状です・・・部署紹介なのになんとか個人的な意見になってしまったのでこの辺でやめておきますが、とにかく当院理学療法室では、科学的根拠に基づいた急性期病院としての理学療法を目指し業務に取り組んでいます。

また、Joint Facilitationという技術により治療効果を挙げています。

以上少し固めの部署紹介ですが、スタッフは至って柔らかめなので、何かあれば遠慮なくどうぞ。



スタッフ紹介

写真向かって左から、羽田由紀（助手） 骸骨（標本です）
山本喜美雄（理学療法士） 小栗淳平（理学療法士）
前列 吉野孝広（理学療法士） 合計4人



腰痛などでお困りの方ご相談下さい。

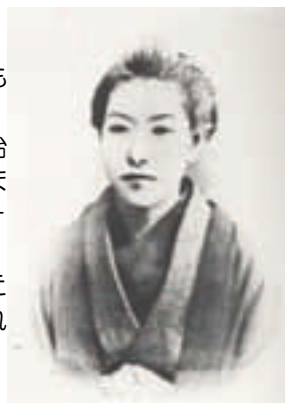
日本の作家（1872-1896）
樋口一葉の肖像は、日本銀行券としては女性で初めて紙幣の肖像に採用された。2004年11月1日より発行中の新五千円札に使用されている。

■ 略歴

明治5年（1872年）東京生まれ。本名は樋口奈津。父は甲州の農家の生まれで、後に同心株を買って士族の仲間入りを果たす。明治16年（1883年）に私立青海（せいかい）学校小学高等科第四級を首席で修了後退学。明治19年（1886年）には中島歌子の歌塾「萩の舎」に入塾。めきめきと頭角をあらわす。一葉は明治20年（1887年）に兄、翌々年に父を亡くした後に17歳で家督を相続してからは、母と妹とつましい暮らしを余儀なくされ、小間物屋を営みながら中島歌子の萩の舎で講師をしたりして生活を支えた。

明治25年（1892年）年処女小説「闇桜」が雑誌『武蔵野』に掲載される。その裏には当時新聞記者であった半井桃水（なからいとうすい）との交流があったが、周囲の目もあって絶縁する。

その後明治28年（1895年）より「たけくらべ」「大つごもり」「にごりえ」「十三夜」「わかれ道」などを発表。明治29年（1896年）年の永眠までの期間は後に「奇跡の14ヶ月」と呼ばれるようになる。15歳から晩年まで綴っていた日記も近代文学の傑作といわれる。明治29年（1896年）11月23日、肺結核により永眠。享年24歳。



管理栄養室からのお知らせ

脳梗塞や脳出血の発症は、生活習慣と大きな関わりがあり、中でも「食生活」は病気の予防や治療に大きく影響します。そこで、当院では毎月1回栄養教室を開催しています。テーマは下記のとおりです。興味がおありの方は是非ご参加下さい。

- 【日時】 毎月1回 第3木曜日
15:00~15:45
- 【場所】 大西脳神経外科病院 4階講堂
- 【対象】 下記の病気で治療中の方
- 【費用】 保険の種類により異なります
老人保険の方・・・80円
それ以外の方・・・240円
- 【担当】 管理栄養士 森川 香



4月21日（木）	高コレステロール血症	コレステロール値を下げたい方のための食事
5月19日（木）	糖尿病	血糖値が高い方のための食事 ～血糖値の上昇を 抑える食べ方～
6月16日（木）	高中性脂肪血症	中性脂肪値を下げたい方のための食事
7月21日（木）	高血圧	血圧を下げたい方のための食事 ～減塩のコツ～
8月18日（木）	高コレステロール血症	コレステロール値を下げたい方のための食事
9月15日（木）	糖尿病	血糖値が高い方のための食事 ～血糖値の上昇を 抑える食べ方～
10月20日（木）	高中性脂肪血症	中性脂肪値を下げたい方のための食事
11月17日（木）	高血圧	血圧を下げたい方のための食事 ～減塩のコツ～
12月15日（木）	高コレステロール血症	コレステロール値を下げたい方のための食事

新入職員のご紹介



臨床検査科のお二人

臨床検査技師 住友 泉

昨年末よりお世話になっております、住友泉です。まだまだ慣れなくてあたふたしていますが、元気良い若いスタッフ達と三人でワイワイ、バタバタ毎日活気よくやっています。プライベートは絵を観たり、描いたりするのが好きです。特技はイタリア語がほんの少し話せます。ちなみに雨の日は苦手です。こんな私ですがよろしく願います。（向って右）



臨床検査技師 吉村 志保

1月末から臨床検査室でお世話になります、吉村志保です。脳神経外科での勤務は初めてなので皆さんご指導よろしく願います。プライベートな事ですが、旅行が趣味なのでなかなかgoodプランがあったら情報よろしく願います。忙しい毎日ですが身体に気を付けて頑張っていきましょう。（向って左）

医事課のお二人

医事課 森本 美奈子

医事課 川上 典子

3月1日より医事課に配属になりました川上典子です。医療事務業務はもちろん、常に患者様に満足していただけるサービスを心がけ、日々業務に携わって行きたいと思えます。そのためにも、言葉・態度に加えるプラスαの行為で患者様の心を癒すことを心がけ、また思いやりと笑顔を持って患者様に接していくよう努力します。慣れるまで、皆様にはご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導よろしく願います。（向って右）

今年2月にフロント係として入職した森本美奈子と申します。以前は博物館の受付・案内業務や外郭団体での営業事務などを経験してきましたが、病院で働くのは今回が初めてです。患者様をはじめ当院に来られる方々に元気をお届けできるよう、笑顔を決やさず大きな声でご挨拶し、常に親身になって対応することを心掛けています。（向って左）

コメントからも分かるようによい人材が職員として加わりうれしい限りです。早く業務になれて自分らしさが発揮できると良いですね。期待しています！



新しい絵が仲間入りしました

1階フロアーに3枚の絵が仲間入りしました。患者様がこの絵をご覧になって少しでも心の癒しのお手伝いになれば嬉しく思います。この絵を描かれた藤原 郁子氏について少し紹介させていただきます。

1970年 加古川市に生まれる。

1993年 大阪芸術大学美術科日本画卒業

卒業後2002年まで兵庫県内の中学校に勤務

結婚を機に無所属として活動。

数々の受賞歴を持つ新進気鋭の若手日本画家です。地元播磨地方を中心に数多くの絵を描き続けておられる地元密着の画家であるというところに深く感銘し、この絵を病院に飾りたいと思いました。

今後とも皆様と共に応援して頂ければ何より心強く思います。



「海のおい」 天理ビエンナーレ入選作品

画家 藤原 郁子氏

ほんのちょっと絵に目を向けてみてはいかがでしょうか。



「向上橋」 西宮文化芸術賞受賞作品



「起詩回生」 播磨町賞受賞作品

院内には数多くの絵画が至る所に掛けてあります。いつもは何気なく見過ごしてしまう、掛かっているのは知っているけど仕事で絵なんか見る暇もなく・・・なんて思っている職員の方！患者様の癒しとしてだけでなく、ゆとりのある仕事をする為にも急ぎ足を少し緩めて、ほんのちょっと絵に目を向けてみてはいかがでしょうか。

編集後記

最近マスコミを賑わせている、ライブドアとフジテレビとのやり取りは傍から見ていぶんにはなんだか面白い。しかし、堀江社長は約800億円もの費用を投じ、単なるマネーゲームと言うにはあまりにもリスクが大きい。一方フジテレビ側も長い間築き上げてきたメディアとしての自負がある、「ほりえもん」ごときに好き勝手されるのは耐え難い。・・・で、

何が言いたいのかと言うと、やはりインフォームドコンセントは大切だ、ということである。もう少し事前に話し合いがあれ

ばこんなややこしいことにはならなかったであろうと思う。

「consent」とは「共に考えそのことに賛成し、同意する」という意味、説明するだけでは、インフォームドコンセントにはならないことも肝に銘じておかななくてはならない。きちんと説明したと認めていても案外相手には通じていないもの、注意しましょう。

ちなみにうちの家でもよくありますので・・・残念！！ (吉野)

